

知って 必ず役立つ4つの備え

地震はいつ発生するか誰にも予想できない。

発災後に、「あれっ」と困らないためにも今のうちに必ず準備・確認しておきたい、

災害用伝言板・ダイヤル

災害用伝言ダイヤルは、震度6以上の地震発生時に特設される。家族や友人などの安否を確認したい時に効果的だ。一般加入電話や公衆電話、携帯電話からも利用可能。保存期間は48時間で最大10件まで登録できる。

▶登録方法

【171】にダイヤル→【1】を押す→【自宅の電話番号を押す】→30秒以内で伝言を録音する

▶再生方法

【171】にダイヤル→【2】を押す→【自宅の電話番号を押す】→再生

災害伝言板は大規模災害が発生した場合、各携帯電話会社のWEBページなどに追加される。登録された情報は、インターネット、携帯、PHSで確認できる。スマートフォンであれば、アプリケーションをダウンロードしておくとう便利である。

自動配信メール

市民向け自動配信メールが6月から導入される。配信される内容は、東海地震関連情報、市内の地震情報（震度3以上）、気象警報・注意報、土砂災害警戒情報と県内の津波警報・注意報、記録的短時間大雨情報、竜巻注意報の8つ。さらに、防犯情報なども配信される。

自動配信メールを利用する人は、omaezaki-entry@tokyoanpi.sbs-infosys.comにメールを送る。下のQRコードを携帯電話で読み取れば、自動的にアドレスが入力される。

メールを送信すると市から返信メールが届く。登録・変更用サイトにアクセスし、必要な情報にチェックを入れる。居住地域は御前崎市内を選択する。登録・変更ボタンをクリックする。内容を確認し、登録ボタンを押す。完了メールが届けば登録完了。



非常持ち出し品は避難生活乗り切るためには必須。リュックサックといった携帯性に優れたものにまとめておこう。

▶地震発生後すぐに持ち出す物

- 飲料水 □携帯ラジオ □懐中電灯 □持病の薬
- 現金 □貴重品 □応急医薬品 □雨具 □寝袋
- タオル □軍手 □生理用品 □ライター □ヘルメット □マスク □非常食など

▶地震が落ち着いたら家に戻って持ち出す物

- 飲料水（1人1日3日分） □非常食料（インスタント食品など） □洗面用具 □燃料（卓上・携帯コンロなど） □衣類 □ポリタンク □毛布 □ラップ・アルミホイル □貴重品

▶赤ちゃんがいる家庭で用意しておく物

- ミルク □哺乳瓶 □離乳食 □オムツ □ガーゼ □スプーン □おふいひもなど

非常持ち出し品

緊急地震速報を頻繁に耳にする。大地震発生箇所の地震波を観測し気象庁が情報提供するもので、地震が到達するまでの間に備えることができる。

東海地震予知情報、東海地震注意情報、東海地震に関連する調査情報も聞き逃してはならない。

▶東海地震が発生する恐れがあり、警戒宣言が発せられた時に「東海地震予知情報」 **緊急度：高**

▶通常とは異なるデータが観測され、その現象が東海地震の前兆現象である可能性が高いと判断された場合に発表される「東海地震注意情報」 **緊急度：中**

▶東海地震に関連する調査が実施された場合に発表される「東海地震に関連する調査情報」 **緊急度：小** 情報は気象庁が発表する。情報発表後は、行政からの情報提供に注意してほしい。

同報無線で流れた直近の情報は、☎0537⑧1179で確認することができる。

速報・同報無線

取材を終えて 自然と向き合い、あらゆる対策を施すことが重要

東北地方でも私たちの地域と同じように周期的に大地震が発生している。災害を最小限にとどめるために、国や研究者らが中心となって対策を練ってきた。しかし「想定外」が重なり大災害となった。世界最先端の知識や技術をもつても大自然にはかなわなかったのだ。東海地震に対しても同様のことが考えられる。

では、私たちはどう備えればいいのか。人類は自然エネルギーに太刀打ちできないことが明白となった。であれば、自然と向き合い、怖さを理解した上であらゆる対策を施すしかない。例えば、海に潮干狩りに行ったら避難場所や避難経路を確認しておくといった、普段あまり意識していなかったようなことにも気を配る必要がある。

防災対策に終わりはない。意識が変われば行動が変わる。小さな防災意識の積み重ねが危険リスクや被害の軽減につながる。

特集 大地震に屈しない終